

春告草

令和3年度 第4号 令和3年6月23日 進路指導部発行

在校生と卒業生の懇談会 5年生の希望者も参加OK！

6月も半ばとなり、そろそろ梅雨入りの季節となる。

4年生は後期課程へ進級して、学校や家庭での生活に変化はあっただろうか。前期課程に比べてより高度になった学習の理解を深めるため、家庭学習の時間を確保できているだろうか。自分の進路選択に向けての基盤となる部分を、決して疎かにせず、毎日の授業や家庭学習を大切にしてほしい。

5年生は、学校行事や部活動の中心となって活躍しなければいけない時期である。現在、コロナウイルス感染症対策のため、学校行事や部活動が思うようにできず、もどかしい思いをしていることだろう。どんな状況であっても、どんな人でも、何らかの悩みを持っている。この困難を乗り越えた先に、自分自身の成長があるのだ。どうやったら学校行事や部活動ができるのか、工夫を凝らし、考え、取り組んだことが、きみたちの受験へ向かうパワーになっていくはずだ。

6年生は「受験生」に変身できただろうか。中学受験以来の入試であり、しかも、全国の受験生としてのぎを削る大学入試だ。何の不安もなく、順調に勉強している人は少ないだろう。どうかその気持ちをうまくコントロールしながら、自分自身に向き合ってほしい。

さて、6月26日（土）に「在校生と卒業生の懇談会（在卒懇）」が実施される。本校の卒業生を招いて、大学の雰囲気や学部・学科の授業の様子を知り、進路選択や受験勉強に役立てるという企画である。先輩たちの話は、自分の進路について深く考える契機となるだろう。多くの卒業生が集まるこの機会を、有効なものにできるかどうかは、在校生のきみたち次第だ。志望校を決めた経緯や受験勉強を振り返っての苦労話などのほか、大学の雰囲気や授業の様子など、聞きたいことがあったら、遠慮せず質問してほしい。

6年生対象の行事だが、5年生も希望者は参加することができる（ただし、6年生の希望を優先するため、人数が多い場合は、Zoom参加になる可能性がある）。

在卒懇に参加する卒業生の所属大学・学部は右表のとおりである。

なお、卒業生へ事前に質問したいことなどがあれば、進路指導部まで申し出てほしい。

「在校生と卒業生の懇談会」の講師

系 統	大 学	学 部	学 科
【A】 人文・外国語 国際・教養	東京大学	文科三類	
	東京大学	文科三類	
	早稲田大学	文学部	
	東京外国語大学	国際社会学部	中央ヨーロッパ学科
【B】 法律・政治 社会学	中央大学	法学部	法律学科
	早稲田大学	政治経済学部	
	一橋大学	社会学部	
【C】 経済・経営 商学	横浜国立大学	経済学部	経済学科
	早稲田大学	商学部	
	一橋大学	商学部	
【D】 教育 体育・芸術	学芸大学	教育学部	学校心理
	法政大学	スポーツ健康学部	スポーツ健康学科
	東京藝術大学	音楽学部	声楽学科
	武蔵野美術大学	造形学部	空間演出デザイン科
【E】 理学 工学 情報	明治大学	総合数理学部	現象数学科
	東京都立大学	理学部	化学科
	金沢大学	理工学部	機械工学科
	東京工業大学	物質理工学院	
	筑波大学	情報学部	情報メディア創成学科
【F】 農学 生物	東京農工大学	農学部	生物生産学科
	京都大学	農学部	食料・環境経済学科
	北海道大学	農学部	
【G】 薬学・歯学 医学・看護	北里大学	薬学部	薬学科
	神戸大学	医学部	医学科
	東京医療保健大学	保健学部	看護学科

「大学入学者選抜実施要項」発表

文部科学省は6月4日、2022年度入試の「大学入学者選抜実施要項」を公表した。これは大学が入試を実施するうえでの原則を示したもので、毎年6月初めに通知されている。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症に関わる対応を踏まえたところがあれば、例年通りに戻したところもある。

昨年度はもともと予定されていた入試改革による変更に加え、3つの観点から新型コロナへの対応がなされた。①高等学校の休業への対応（共通テストの第1・第2日程、総合型選抜の出願スタートの後ろ倒しなど）、②罹患した受験生への受験機会の確保（個別試験の追試など）、③試験当日の感染拡大の防止（面接のオンライン化など）だ。このうち②、③は本年度も引き続き大学側に対して対応を求めている。ただし、①については現在のところ、全国一斉での学校休業は行われていないため、本年度の選抜実施要項では、主に①に関わる措置がなくなった（つまり、第2日程は実施しない）。

	2021年度入試（昨年度）	2022年度入試（本年度）
本試験	【第1日程】 令和3年1月16日、17日	令和4年1月15日、16日
	【第2日程】 令和3年1月30日、31日 ※第1日程の追試験としても実施	実施せず
追試験	【特例追試験】 令和3年2月13日、14日 ※第2日程の追試験として実施	令和4年1月29日、30日 ※本試験の2週間後
国公立大学 の出願	【第1・第2日程の受験者】 令和3年1月25日～ <u>2月5日</u> ※第2日程があったため、出願締め切りが延長された。 【特例追試験の受験者】 令和3年2月15日～2月18日	令和4年1月24日～ <u>2月2日</u> ※国立大学協会「2022年度入学者選抜についての実施要領」による ※今後、出願日程の変更があるか、注目だ。
国公立大学 一般選抜の 実施日と 合格発表日	【前期日程】 令和3年2月25日（～26日） 発表：3月6日～10日 【後期日程】 令和3年3月12日 発表：3月20日～24日	【前期日程】 令和4年2月25日（～26日） 発表：3月6日～10日 【後期日程】 令和4年3月12日 発表：3月20日～24日

昨年度は、第1日程⇒（2週間後）第2日程⇒（2週間後）特例追試 という流れだったが、特例追試がなくなり、例年の形に戻った。しかし、本試験と追試験の間は昨年度同様に2週間となった。新型コロナウイルス感染症の対応として、2週間の間隔が必要になるためだ。

国公立大学の出願は、現在のところ1月24日から2月2日となっている。追試験が2週間後となると、国公立大の出願期間や各大学への成績提供日に影響があるかもしれない。受験生は、受験する可能性がある学校を幅広く調べておく必要があるだろう。

大学入試の基礎知識(第4回)

大学入試って、みんなは何校ぐらい受けるのだろうか？ 大学を受験するの、どのぐらいお金がかかるのだろうか？

4年生、5年生は、「まったく考えたことがない」という人がほとんどだろう。6年生は何校ぐらい受験するのか、気になる話題かもしれない。

6期生の大学入試で受験した数（延べ受験回数）を集計したところ、[資料1]のように文系の平均が8～9回、理系の平均が5～6回という結果であった。これはあくまでも「平均」であり、中には国公立1校（前期、後期の2回）しか受験していない人もいれば、なんと24回も受験した人もいる。また、出願したものの受験しなかった場合もあるので、実際にはもっと多く出願していると考えられる。

[資料1] 三鷹中等教育学校
6期生の大学入試受験校数等

	人数	受験数	平均
国公文	55	525	9.5
私文	43	366	8.5
国公理	44	286	6.5
私理	6	34	5.7

2021年度大学入試合否結果より集計

受験にまつわる「お金」のはなし

では、大学を受験するのに、どのぐらいお金がかかるのだろうか。[資料2]を見てほしい。共通テスト+国公立や「共通テスト+私立（共通テスト利用入試）」で1校・1学部だけ受けるなら4万円程度で済ませることもできるが、多くの受験生は複数の大学、複数の学部を併願する。どのような入試方式で、何校ぐらい受けるのかによって、必要な受験料の合計は変わってくる。私立大学によっては、「併願割引制度」を設定していることもあり、この制度をうまく活用すれば、受験料の節約になる[資料3]。

[資料2] 大学入学試験受験料等

大学入学共通テスト	3教科以上	18,000円	※1
	2教科以下	12,000円	
国公立大学	個別試験	17,000円	※2
私立大学	一般選抜	35,000円	※3
	共通テスト 利用入試	20,000円	

※1 「令和3年度大学入学共通テスト受験案内」より

※2 東京大学「授業料、入学料、検定料の額」より

※3 早稲田大学 入学センター「入学検定料」より

[資料3] 併願割引制度

全学部統一入試	1学部出願	35,000円
※全学部統一入試において、複数学部を出願する場合は、 2学部目以降の入学検定料が20,000円になる。		
(例) 全学部統一入試のみで法学部と商学部を出願する場合 ⇒35,000円+20,000円=55,000円		
一般選抜入試		35,000円
大学入試センター試験利用入試		18,000円

明治大学 2021年度「学部入試情報」より抜粋

いずれも2021年度入試要項より抜粋

受験費用の平均はいくら？

大学受験にかかる費用について、もう少し詳しく考えていこう。

大学を受験するには、受験料だけでなく、受験会場まで行くための交通費がかかる。志望する大学が遠い場合は、飛行機や新幹線での移動になったり、前日に現地で宿泊するためのホテル代が必要になったりする可能性がある（6期生では、10月を目安に宿泊先を予約するように指導した）。

日本政策金融公庫が行った「教育費負担の実態調査（2020年10月）」によると、受験費用（受験料や受験のための交通費・宿泊費の合計）の平均は、32.5万円である。この金額には、「入学先となった学校の受験費用」だけでなく、複数受験した場合の「受験したすべての学校・学部にかかる費用」「受験のための交通費・宿泊費」も含まれている。大学を受験するには30万円程度かかると考えておこう。ちなみに、同調査では大学の入学費用（受験費用+学校納入金+入学しなかった学校への納付金）の平均は89.7万円という結果である[資料4]。国公立大学へ入学した場合は、入学しなかった学校（私立大学等）への納付金の負担が大きい、第一志望の合否がわかる前に一時手続きをしなければならず、やむを得ない出費である。

[資料4] 大学入学にかかった費用（万円）

学校納付金	45.9
受験費用	32.5
入学しなかった学校への納付金	11.3
合計89.7万円	

日本政策金融公庫「教育費負担の実態調査」
(2020年10月)

学費はどのぐらい？

では、受験にはお金がかかるから、「都内の大学のほうがいい」のかというと、そうとも限らない。以下の表を見てほしい [資料 5]。

【資料 5】2020年度 初年度納付金※ 1 平均額									
	国立大学（標準額※ 2）			公立大学（標準額※ 2）			私立大学（平均額※ 3）		
区分	授業料	入学料	初年度納付金	授業料	入学料	初年度納付金	授業料	入学料	初年度納付金
	円	円	円	円	円	円	円	円	円
文科系	535,800 ※ 4、※ 5	282,000	817,800	536,382	392,111 ※ 6	928,911	793,513	228,262	1,172,582
理科系							1,116,880	255,566	1,549,688
医歯薬系							2,867,802	1,073,083	4,803,378
文部科学省「国公立私立大学の授業料等の推移」より									
※ 1 「初年度納付金」とは、入学料や授業料、施設費、実習費など、1 年次に支払う学費全体のこと。									
※ 2 国公立大学は、一部を除き、大学・学部・学科を問わず、標準額の通りである。									
※ 3 私立大学は、それぞれの学部・学科を合わせた平均額である。									
※ 4 千葉大、東京医科歯科大、東京藝術大、一橋大の授業料は、642,960円。									
※ 5 東京工業大学の授業料は、635,400円。									
※ 6 公立大学の入学料は、地域外からの入学者平均である。									

大学の「学費」に含まれる代表的なものは、①入学料（初年度のみ） ②授業料 ③施設設備費 ④実験実習費 ⑤教科書・教材費などがある。金額は国立・公立・私立と大学の種類によって異なる。また、私立大学の場合は学ぶ分野によっても大きく違っている。

●国立大学の学費：初年度納入金は「81 万 7800 円」

ほかに施設費や実習費などがかかる場合があり、そのぶん大学ごとに多少の差は出るものの、全体でみると比較的抑えられている。

●公立大学の学費：初年度納入金は「92 万 8911 円」

公立大学も比較的費用が抑えやすく、大学が位置する地域出身者の場合は、入学料に関して優遇制度が設けられており、東京都立大学の場合、東京都の住民は入学料が半額になる。

●私立大学の学費：国公立大学と違い、学校や学部・学科によって金額に大きく差がある。

文系科学部が「117 万 2582 円」、理系科学部が「154 万 9688 円」であるのに対し、医歯系学部は「480 万 3378 円」である。

この他、国公立、私立ともに、上記の平均額に含まれていない「実験実習料」や、「その他（教材費、教科書代など）」等の諸費用がかかる場合がある。また、自分専用のパソコンを購入しなければならなかったり、国際・英語関連の学部で留学が必須だったりする場合は、その費用も自己負担となる。

医・歯・薬・獣医学部は 6 年制のため、さらに 2 年分の学費がかかる。理学部、工学部、農学部では、学部卒業後に大学院修士課程（2 年制）に進学する人も多い。そう考えると、理系を志す生徒は、地方の国公立大学も視野に含めて、幅広く志望校を検討すべきであろう。

なお、これまで述べてきたことは、あくまでも「平均額」である。個々の大学・学部の実際の学費については、大学のホームページ等で、確認してほしい。また学費が高かったとしても、少人数教育が充実していたり、最新の施設・設備を整えていたりする場合もある。教育内容と比較して、検討しなければならない。

修学支援制度を知っておこう！

大学へ進学するには、お金がかかる。しかし、経済的な理由で学び続けることをあきらめずにすむよう、文部科学省では「高等教育の修学支援新制度」の充実を進めている。「日本学生支援機構」の奨学金制度を利用する方法もあるし、大学によって独自の奨学金制度や授業料等の減免制度、特待生制度を導入しているところもある。6 期生にも、私立大学の医学部に特待生で合格した生徒が 2 名いる。奨学金等の制度については、また改めて詳しく紹介しよう。

受験する大学を絞り込むのが遅くなればなるほど、冷静な判断ができなくなる。入試方法によっては、余計な費用をかけずに複数学部を併願したり、大学入学後の奨学金が予約できたりする。5 年生、4 年生も、早めに志望大学を決め、着実に勉強することができれば、受験費用を抑えることにつながるのだ。

きみたちの大学受験に理解・協力をしてくれる保護者に感謝しながら、受験勉強に励んでほしい。